HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	母子世帯の子どもに対する学習支援の実態と課題 ― さっぽろ・まなトピアを事例として ―
著者	中囿, 桐代; NAKAZONO, Kiriyo
引用	開発論集(112): 1-33
発行日	2023-09-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

開発論集　第112号　1-33（2023年９月）

母子世帯の子どもに対する学習支援の実態と課題[1]

―― さっぽろ・まなトピアを事例として ――

中　囿　桐　代*

１．課 題 意 識

私たちはいつから「子どもの貧困」を社会問題として認識してきたのだろうか？「なくそう子どもの貧困」全国ネットワークのHPによれば2008年から子どもの貧困が関心を集めるようになり，民主党政権下の2009年に厚労省が初めて子どもの貧困率を発表した（14.2%）。2014年には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行され，その目的は以下のとおりである。

> この法律は，子どもの現在及び（下線部は2019年改正で追記：筆者）将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう，全ての子どもが心身ともに健やかに育成され，及びその教育の機会均等が保障され，子ども一人一人が夢や希望を持つことができるようにするため，子どもの貧困の解消に向けて，児童の権利に関する条約の精神にのっとり，子どもの貧困対策に関し，基本理念を定め，国等の責務を明らかにし，及び子どもの貧困対策の基本となる事項を定めることにより，子どもの貧困対策を総合的に推進することを目的とする。

この法律によって各自治体は子どもの貧困対策計画を策定することとなり，2018年に「札幌市子ども貧困対策計画」が策定された。

このように子ども貧困への対策は一見進んでいるように見える。厚生労働省2021年「国民生活基礎調査」によれば子どもの相対的貧困率[2]は11.5%であり，前回18年調査から2.5%改善しOECDの平均12.8%を下回った。しかしながら，ひとり親世帯（そのほとんどがシングルマザー）の貧困率は44.5%と前回48.3%を下回わったものの，相変わらずOECDの平均31.9%を上回る。

---

*（なかぞの　きりよ）北海学園大学開発研究所研究員，北海学園大学経済学部教授

[1] 本稿に関連する研究は開発研究所総合研究「北海道における持続可能な地域社会の形成方策に関する総合的研究～地方創生とSDGsからのアプローチ～」（2021～23年度）の助成を受けた。

[2]〈相対的貧困率〉世帯の可処分所得（手取り）などをもとに子どもを含めた一人一人の所得を仮に計算し，順番に並べた時，真ん中の人の額の半分（貧困線＝18年調査では127万円）に満たない人の割合。子どもの相対的貧困率は，貧困線に届かない17歳以下の割合を示す。（朝日デジタル「子どもの７人に１人が貧困状態　18年調査で高い水準に」2020年７月17日）なお，2021年の貧困線も同額の127万円である。（厚労省　2022（令和４）年　「国民生活基礎調査の概況」）

本稿で取り上げるのは，「札幌市子ども貧困対策計画」の「本施策２　子どもの育ちと学びを支える取組の推進」の「施策２－２　学びの支援」の中に位置付けられている「ひとり親家庭学習支援ボランティア事業」[3] である。内容は「ひとり親家庭の児童（小学校３年生から中学校３年生）に対し，学習支援（市内 10 区の会場で実施）により学習習慣を身につけさせるとともに基礎的な学力の向上を図り，また進学や進路等の相談を通じてひとり親家庭の不安感を解消し，ひとり親家庭の自立を促進」するものである。この事業は公益社団法人札幌市母子寡婦福祉連合会（以下，札母連と表記）が札幌市から委託され「さっぽろ・まなトピア」（以下，まなトピアと表記）として行っている。

この事業は，「子ども自身ではどうすることもできない家庭環境などによる学習面への影響を出来る限り少なくすることが求められるため，学校教育の充実はもとより，学習意欲の向上につながる様々な学習機会の提供や，安心して教育を受けられる環境の整備に取り組」むこと[4] を目的としている。

この学習支援事業を利用しているシングルマザーたちはまなトピアをどう評価しているのであろうか，また，家庭での学習をまなトピアがどの程度支えてられているのかを母親のアンケート調査によって明らかにするのが，本稿の課題である。

加えて，本稿では母子世帯での子どもの家庭での学習状況についても検討を加える。「札幌市子ども貧困対策計画」の中でも「学習支援により学習習慣を身につけさせる」ことが目標とされている。

家庭での学習の状況は２つの側面からみていくことにする。１つ目は，普段の子どもたちの学習の状況である。母子世帯の子どもは学習習慣が身についていない，学力が低いと言われ，教育格差という社会問題として認識される。この要因は長時間働かざるを得ない母親の子どもに対するケアが少ないからなのであろうか。母子世帯の家庭での子どもの学習状況を検討する。

２つ目は，コロナ禍の休校期間の学習の状況を検討する。2020 年３月から断続的にかつ長期間に渡った休校期間中，母子世帯の子どもたちがどのような状況に置かれていたのかを明らかにする。コロナ禍の始まった 2020 年春に母子世帯において子どもだけが家庭に取り残され，安心・安全な子どもの居場所が失われていたことは既に明らかにした[5]。特に母子世帯に大きな影響を与えたコロナ禍での子どもたちの学習の状況を検討する。

これらの家庭での子どもの状況を検討し，改めてまなトピアの果たしている役割，今後の課題を考える。

---

[3]「札幌市子ども貧困対策計画」52 ページ（https://www.city.sapporo.jp/kodomo/torikumi/taisaku/documents/07dai4syou.pdf　2023 年７月 25 日閲覧）

[4] 前掲「札幌市子ども貧困対策計画」47 ページ

[5] 拙著 『シングルマザーの貧困はなぜ解消されないのか 「働いても貧困」の現実と支援の課題』（勁草書房　2021 年）「第３章　新型コロナウイルス禍がシングルマザーの労働と子育てに与える影響」参照のこと。

本稿をまとめるにあたり札母連理事長箭原恭子氏，事務局大沼美由紀氏には多大なご協力を頂いた。この場を借りてお礼申し上げる。また，まなトピアでのアンケートにご協力頂いた皆様にもお礼申し上げる。

2．さっぽろ・まなトピアの概要

（1）さっぽろ・まなトピアの概要

札母連は子どもの学習支援として無料学習塾「まなトピア」を 2010 年から開催している。参加できるのは小学校 3 年から中学 3 年生までである。当初は，札母連の自主事業として事務所のある札幌市社会総合福祉センターで始まった。北海道大学の学生を中心にボランティア講師を募り，参加者からは 1 回 100 円を参加費として徴収していた。

その後，2013 年 10 月からは札幌市のひとり親家庭学習支援ボランティア事業運営受託事業となり，「さっぽろ・まなトピア」と名称も変更した。この時点では 5 区で開催していた。翌 2014 年 5 月には 10 区で開催されるようになった。市の受託事業となって参加費の徴収も無くなった。毎年 2 ～ 3 月にプロポーザル方式でひとり親家庭学習支援ボランティア事業の応募が行われ，札幌市が選定を行なっている。札幌市の委託事業となってから一貫して札母連が受託している。

札母連が札幌市に先立って子どもの学習支援を始めたのは，先に述べたように教育格差が社会問題として認識され，特に母子世帯の子どもの進学の課題や学習の遅れが指摘されるようになり，当時の札母連理事長上田厚子氏がシングルマザーが働くための育児支援だけではなく子どもの学習支援の必要性を強く認識していたからである。

現在は札幌市の各区において週 1 回，土曜日か日曜日に区民センターや児童会館等を会場に 2 時間の学習会を行なっている。各区によって若干異なるが，GW 1 回，お盆期間 1 回，年末年始の休みを除く毎週末に開催している。

札母連はまなトピアの目的を以下のように説明している[6]。塾のように単に学力向上を目指しているわけではなく，〈居場所づくり〉や〈学習意欲の喚起〉が目指されている。

> ひとり親家庭の子供に対して，「学習や進学意欲の喚起」「居場所づくり」「学ぶ楽しさ」「生きる力の養成」の他，学習習慣を身につけさせ，基礎的な学力の向上を図るとともに，進学や進路等の相談を通じ，ひとり親家庭の不安感を解消し，未来を担う子どもたちが夢と希望を持てる学習支援を行うことを目的とする。

加えて，まなトピアは区ごとに地域の関連団体とのプラットフォーム的な役割も果たしている。コロナ禍では他団体と協力してお弁当を配布する区もあった。また，コロナ禍以前でも子

[6] 札母連理事長　箭原恭子氏作成資料より

ども食堂と連携した取り組みを行なっている区もあった。

まなトピアの 2018～22 年度の各区の開催回数（対面開催のみ，新型コロナウイルスの感染拡大に伴い休止期間除く）は表 1 の通りである。コロナ禍の 2019～21 年度は開催回数も減少している。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が北海道に発出されていた期間，まなトピア

表 1　2018 年度～22 年度の各区の開催回数（対面，コロナで休止期間除く）

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2022	5 月	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	41
	6 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	7 月	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
	8 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	9 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	10月	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
	11月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	12月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	1 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	2 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	3 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	合計	46	46	46	46	47	46	46	46	46	46	461
2021	7 月	2	3	2	2	1	3	3	2	3	3	24
	8 月	2	2	3	3	4	2	2	2	2	2	24
	9 月		3									3
	10月	5	5	5	5	5	5		5	5	5	45
	11月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	12月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	39
	1 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	2 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	3 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	合計	29	33	30	30	30	30	25	29	30	29	295
2020	6 月	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
	7 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	8 月	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
	9 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	10月	5	5	5	4	4	5	5	5	5	5	48
	11月	4	4	4	5	5	4	4	4	4	4	42
	12月	3	3	3	3	4	4	3	3	3	4	33
	1 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	2 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	3 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	合計	39	39	39	39	40	40	39	39	39	40	393
2019	4 月	4	4	4	4	4	4	4		4	0	32
	5 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4		36
	6 月	5	5	5	5	5	5	4	4	5	5	48
	7 月	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	39
	8 月	5	5	5	4	4	5	5	5	4	5	47
	9 月	4	4	4	5	5	4	4	4	4	4	42
	10月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	11月	5	5	5	4	4	5	5	5	5	5	48
	12月	3	4	3	4	4	3	3	4	3	3	34
	1 月	3	3	4	3	4	3	3	3	3	4	33
	2 月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	39
	合計	41	42	42	41	42	41	39	41	40	37	406

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2018	4月	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	41
	5月	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	31
	6月	5	4	4	4	4	5	5	5	5	5	46
	7月	4	4	4	5	5	4	4	4	4	4	42
	8月	3	3	3	3	4	4	3	3	4	3	33
	9月	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	41
	10月	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	38
	11月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	12月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	39
	1月	3	4	4	3	4	3	3	4	3	4	35
	2月	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
	3月	5	4	4	5	5	5	4	5	5	5	47
	合計	43	42	42	43	46	44	42	43	44	43	432

（出典：札母連資料より筆者作成）

も休止したためである。コロナ禍の影響のない 2018 年度には全区で 432 回開催された。2022 年度は 5 月スタートとなったが，全区で 461 回開催された。

まなトピアは学校や塾のように一斉授業を行わない。子どもたちはそれぞれ教科書や宿題やドリル，ワークなどを持参し，自分で学習する内容を決める（講師と相談することもある）。わからない点があった場合，ボランティア講師に声をかけ解説や解き方を教わる。学習時間は 50 分，10 分休憩，これを 2 回繰り返す。

2014 年度以降の子どもの参加状況は表 2 のとおりである。2014～22 年度の 9 年間で小学生 17,350 人，中学生 19,963 人，合わせて 37,313 人の子どもが参加している。しかし，近年は

表 2　まなトピア参加者数

年度	学年	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	計
2022	小学 3 年	27	5	63	15	0	41	1	0	36	34	222
	小学 4 年	11	5	0	82	0	35	26	39	85	42	325
	小学 5 年	22	14	63	85	0	8	38	53	64	6	353
	小学 6 年	46	8	5	3	0	17	34	0	40	94	247
	小学生合計	106	32	131	185	0	101	99	92	225	176	1,147
	中学 1 年	64	3	58	125	57	39	3	117	56	34	556
	中学 2 年	0	49	103	74	45	34	36	11	37	137	526
	中学 3 年	81	37	3	102	58	88	16	64	1	8	458
	中学生合計	145	89	164	301	160	161	55	192	94	179	1,540
	合計	251	121	295	486	160	262	154	284	319	355	2,687
2021	小学 3 年	1	0	0	10	0	13	13	0	48	4	89
	小学 4 年	5	21	34	38	0	32	41	6	34	2	213
	小学 5 年	13	3	0	7	0	6	34	1	3	27	94
	小学 6 年	34	4	26	41	23	17	9	17	62	22	255
	小学生合計	53	28	60	96	23	68	97	24	147	55	651
	中学 1 年	3	55	49	72	22	21	0	2	32	72	328
	中学 2 年	34	17	3	50	29	40	16	7	8	5	209
	中学 3 年	43	33	111	98	2	93	19	1	22	50	472
	中学生合計	80	105	163	220	53	154	35	10	62	127	1,009
	合計	133	133	223	316	76	222	132	34	209	182	1,660

年度	学年	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	計
2020	小学３年	4	63	38	57	0	2	62	1	52	23	302
	小学４年	0	13	2	22	0	1	39	16	2	71	166
	小学５年	45	0	95	49	62	18	59	5	80	83	496
	小学６年	20	69	93	84	28	42	0	0	25	127	488
	小学生合計	69	145	228	212	90	63	160	22	159	304	1,452
	中学１年	49	46	21	143	95	74	20	35	19	10	512
	中学２年	110	72	157	165	34	163	12	0	31	86	830
	中学３年	10	42	63	0	35	33	10	7	11	40	251
	中学生合計	169	147	241	308	164	270	42	42	61	136	1,593
	合計	238	292	469	520	254	333	202	64	220	440	3,032
2019	小学３年	8	16	4	26	0	31	14	39	0	53	191
	小学４年	54	0	89	8	53	31	49	23	93	19	419
	小学５年	1	145	159	52	45	35	4	14	39	140	634
	小学６年	112	46	28	42	79	66	15	76	27	27	518
	小学生合計	175	207	280	128	177	163	82	152	159	239	1,762
	中学１年	90	20	129	136	58	113	10	30	67	1	654
	中学２年	93	56	36	47	36	20	2	41	53	44	428
	中学３年	125	53	99	138	22	62	0	9	83	52	643
	中学生合計	308	129	264	321	116	195	12	80	203	88	1,725
	合計	483	336	544	449	293	358	94	232	362	327	3,478
2018	小学３年	25	9	61	7	60	3	65	62	98	33	423
	小学４年	21	136	90	8	65	42	5	6	105	107	585
	小学５年	86	62	68	51	71	74	24	60	11	39	546
	小学６年	62	44	99	170	122	142	4	25	73	44	785
	小学生合計	194	251	318	236	318	261	98	153	287	223	2,339
	中学１年	107	56	64	66	153	58	21	64	76	83	748
	中学２年	117	90	125	134	36	103	2	30	107	45	789
	中学３年	10	23	238	186	104	90	39	26	54	120	890
	中学生合計	234	169	427	386	293	251	62	120	237	248	2,427
	合計	428	420	745	622	611	512	160	273	524	471	4,766
2017	小学３年	32	123	44	11	38	5	7	43	140	94	537
	小学４年	123	30	1	46	70	112	40	72	9	43	546
	小学５年	59	85	110	37	50	169	24	34	80	99	747
	小学６年	32	15	98	119	66	98	49	29	110	66	682
	小学生合計	246	253	253	213	224	384	120	178	339	302	2,512
	中学１年	155	71	87	179	60	81	9	27	81	29	779
	中学２年	38	60	329	260	90	103	83	13	93	109	1,178
	中学３年	141	197	141	99	48	71	79	1	101	44	922
	中学生合計	334	328	557	538	198	255	171	41	275	153	2,879
	合計	580	581	810	751	422	639	291	219	614	455	5,362
2016	小学３年	122	33	0	16	54	97	40	94	52	40	548
	小学４年	83	85	40	26	0	95	7	18	68	80	502
	小学５年	54	8	34	78	35	104	66	17	38	1	435
	小学６年	134	69	109	107	84	65	15	41	70	4	698
	小学生合計	393	195	183	227	173	361	128	170	228	125	2,183
	中学１年	4	86	373	227	36	88	88	21	56	130	1,109
	中学２年	142	183	183	158	23	45	53	1	76	116	980
	中学３年	153	36	229	220	36	53	23	9	38	147	944
	中学生合計	299	305	785	605	95	186	164	31	170	393	3,033
	合計	692	500	968	832	268	547	292	201	398	518	5,216

年度	学年	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	計
2015	小学３年	19	39	44	47	0	56	21	37	141	33	437
	小学４年	3	15	42	44	12	73	76	26	81	2	374
	小学５年	148	39	58	115	57	24	16	34	48	0	539
	小学６年	44	101	285	147	34	114	144	31	149	130	1,179
	小学生合計	214	194	429	353	103	267	257	128	419	165	2,529
	中学１年	149	141	260	180	48	76	70	20	251	166	1,361
	中学２年	180	47	197	165	21	47	56	32	97	106	948
	中学３年	80	121	210	68	163	77	118	57	51	67	1,012
	中学生合計	409	309	667	413	232	200	244	109	399	339	3,321
	合計	623	503	1,096	766	335	467	501	237	818	504	5,850
2014	小学３年	0	32	20	55	47	0	37	0	59	17	267
	小学４年	138	46	43	107	52	0	15	37	75	1	514
	小学５年	73	36	191	124	68	37	126	30	138	106	929
	小学６年	145	60	242	106	83	32	82	46	174	95	1,065
	小学生合計	356	174	496	392	250	69	260	113	446	219	2,775
	中学１年	166	98	93	182	12	79	11	84	90	42	857
	中学２年	132	49	245	115	77	23	43	7	25	24	740
	中学３年	206	76	150	138	28	10	14	71	76	121	890
	中学生合計	504	223	488	435	117	112	68	162	191	187	2,487
	合計	860	397	984	827	367	181	328	275	637	406	5,262
総計	小学生総計	1,806	1,479	2,378	2,042	1,358	1,737	1,301	1,032	2,409	1,808	17,350
	中学生総計	2,482	1,804	3,756	3,527	1,428	1,784	853	787	1,692	1,850	19,963
	総計	4,288	3,283	6,134	5,569	2,786	3,521	2,154	1,819	4,101	3,658	37,313

（出典：札母連資料より筆者作成）

コロナ禍による休止もあって利用する子どものべ人数は減少しているが，以前には年間5,000人を超える子どもが利用していた。

（2）親支援としてのまなトピアの役割

まなトピアは子どもだけでなく母親の支援の場となっている。各区の毎回のまなトピアではシングルマザーから生活相談を受け付けている。内容は主に経済的なものである。その数は表3のとおりである。2018年度はコロナ禍の影響が全くなく，19年度はコロナ禍のため3月

表3　各区の生活相談の件数

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2022	5月				7							7
	6月	1			10							11
	7月	1			13							14
	8月	3			11							14
	9月				13			1				14
	10月	1			14		1			1	6	23
	11月				14	1	1					16
	12月				13							13
	1月				13							13
	2月	1			15							16
	3月				15							15
	合計	7			138	1	2	1		1	6	156

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2021	7月				1		2		1			4
	8月				2							2
	9月											0
	10月	2			11		2		2			17
	11月				8			2				10
	12月				10	2		3				15
	1月	1			3	1		1			6	12
	2月				3	1		2			5	11
	3月	1			2	1					5	9
	合計	4			40	5	4	8	3			64
2020	6月	3		3			2	1		1		10
	7月			2				2			6	10
	8月	1					1	1		1	7	11
	9月							2			4	6
	10月				1			2		1		4
	11月	4		2	2	1		1		1		11
	12月	3			1			1			6	11
	1月				3							3
	2月				3	2		2			5	12
	3月	1			2	1					5	9
	合計	12		7	12	4	3	12		4	33	87
2019	4月	1										1
	5月							1				1
	6月	1			1							2
	7月											0
	8月	2					1					3
	9月	2										2
	10月											0
	11月	1										1
	12月						1					1
	1月	1										1
	2月											0
	合計	8			1		2	1				12
2018	4月							1	1			2
	5月											0
	6月						2					2
	7月	2					2					4
	8月						1					1
	9月			1							2	3
	10月	1										1
	11月	2	1									3
	12月							2				2
	1月	1										1
	2月											0
	3月							1				1
	合計	6	1	1			5	4			2	19

（出典：札母連資料より筆者作成）

が休止となったが，この2年間の生活相談は決して多くはない。ところが，2020年度はコロナ禍のため4月5月の2ヶ月間まなトピアが休止となったが，生活相談の件数は2018年度の年間19件から87件と大幅に伸びている。2020，21年度は白石区を除けば落ち着きつつあるが，それでも2018年度よりは増えている。白石区で件数が大幅に増加しているのは，カウン

セラー経験者がボランティアに入り数字の取り方が細やかになったからである。

このようにまなトピアは，子どもの学習支援だけでなく母親にとっても日常的に相談ができる場所となっている。生活相談では，生活保護を受給している母親の悩みを聞くと言ったことも行われている。

進路相談の件数は表４の通りであり，主に中学生の進学先などの相談に乗ったりしている。

表４　各区の進路相談の件数

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2022	５月				13							13
	６月	3			10							13
	７月	1			14			1				16
	８月	4			11							15
	９月				10							10
	10月	2	1		14	1	1				1	20
	11月	1			8		1					10
	12月			1	9			2				12
	１月				14			1				15
	２月	1			10	1		1				13
	３月	4			12							16
	合計	16	1	1	125	2	2	5			1	153
2021	７月				1		2					3
	８月	1			1							2
	９月											0
	10月	2			11		2		2			17
	11月			1	6							7
	12月				7	2						9
	１月	2		1	2							5
	２月				1	2					6	9
	３月	1	2		2			1			6	12
	合計	6	2	2	31	4	4	1	2		12	64
2020	６月	3					3	1		1	3	11
	７月	3		1			3	2			6	15
	８月	1		1			2	4		1	5	14
	９月	2		1							4	7
	10月		1		1							2
	11月	4		1	3							8
	12月	2		1	2							5
	１月			1	2							3
	２月				1						6	7
	３月	1	1		2			1			6	11
	合計	16	2	6	11	0	8	8	0	2	30	83
2019	４月	1							2			3
	５月								1			1
	６月											0
	７月				1							1
	８月	2		1			1		2			6
	９月	2				1						3
	10月					1						1
	11月	2	1						1			4
	12月	1					1					2
	１月	1										1
	２月					1			2			3
	合計	9	1	1	1	3	2	0	8	0	0	25

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2018	4月								4			4
	5月								2			2
	6月		1	1			2		1			5
	7月	2		1			1		2			6
	8月			1			1					2
	9月								3			3
	10月		1		2							3
	11月	3							3	1		7
	12月				3							3
	1月	1					1		3			5
	2月	2							3			5
	3月		1					1	2			4
	合計	8	3	3	5	0	5	1	23	1	0	49

（出典：札母連資料より筆者作成）

進路相談も生活相談とほぼ同じ動向である。2018，19年度は利用が多くないが，2020年度以降件数が増えている。コロナ禍で母親の経済状況が厳しくなり，進路に関する相談も増えたと思われる。

まなトピアは母親が子どもを送迎する際に相談ができるため，わざわざ相談機関に出向く必要がなく，気軽に相談ができる機会となっている。

（3）まなトピアの運営体制

各区の札母連の寡婦[7] 1～2名がボランティアリーダーになりまなトピアの運営にあたっている。ボランティアリーダーの参加数は表5の通りである。コロナ禍での休止期間があったにもかかわらず，2020～22年度の3年間で2,161名のボランティアリーダーが運営に当たった。ボランティアリーダーは会場の予約，ボランティア講師の手配，ボランティア講師への交通費の支給，参加する子どもの出欠管理，新たに子どもが参加するシングルマザーとの面談，新たに参加するボランティア講師への注意事項の説明等といった業務を担う。

ボランティア講師は大学生だけでなく，退職教員や一般市民も参加している。ボランティア講師の参加数は表5の通りである。2020～22年度の3年間で3,786名のボランティア講師が参加している。ボランティア講師の募集は区ごとに行っており，ボランティア講師の中には，自分で子どもが使用する教材等を購入して持参する熱心な人もいる。また，2時間の子どもの学習時間が終わった後に，ボランティア講師どうしで，どういった子どもへのアプローチがいいのか等を話し合うこともある。

なお，2018，19年度については，表6のようにボランティア講師，ボランティアリーダーの区別なく集計されているが，両者合わせて年間2,000名以上が子どもの学習支援にあたっている。これだけのボランティアを動員できるのは，区ごとに札母連の組織である区母連があ

[7] 寡婦とは末子が成人したシングルマザーを指す

表５　2020 年度～22 年度のボランティアの参加状況（対面開催のみ，のべ人数，コロナで休止期間除く）

年度	月		中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2022	５月	講師	11	9	14	19	11	11	7	7	15	10	114
		リーダー	8	7	8	8	10	8	8	8	8	8	81
	６月	講師	10	10	16	20	9	12	8	11	14	13	123
		リーダー	8	7	8	8	8	8	8	6	8	7	76
	７月	講師	15	13	25	24	11	15	10	13	16	14	156
		リーダー	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	99
	８月	講師	11	10	14	21	9	11	7	11	10	10	114
		リーダー	7	8	8	8	8	8	7	8	8	8	78
	９月	講師	11	11	11	22	9	12	8	11	11	11	117
		リーダー	8	8	7	8	8	8	7	7	7	6	74
	10月	講師	16	9	15	28	12	14	9	15	14	17	149
		リーダー	10	10	10	10	10	10	8	10	10	5	93
	11月	講師	12	4	15	23	11	12	8	12	11	15	123
		リーダー	8	6	8	8	8	8	8	8	7	7	76
	12月	講師	11	7	16	22	8	14	7	12	13	17	127
		リーダー	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	79
	１月	講師	12	4	15	20	8	12	7	12	13	12	115
		リーダー	8	6	8	8	8	8	8	8	8	8	78
	２月	講師	8	9	12	23	7	12	6	14	13	10	114
		リーダー	8	7	8	8	7	8	8	8	7	7	76
	３月	講師	11	10	13	23	9	12	5	11	11	13	118
		リーダー	7	8	8	8	8	8	8	7	8	6	152
	講師合計		128	96	166	245	104	137	82	129	141	142	1,370
	リーダー合計		90	85	91	92	93	92	88	88	89	78	886
	合計		218	181	257	337	197	229	170	217	230	220	2,332
2021	７月	講師	8	12	5	9	2	8	6	3	10	13	76
		リーダー	4	6	4	4	1	6	5	3	6	6	45
	８月	講師	6	8	11	13	6	8	2	4	7	9	74
		リーダー	4	4	6	6	8	4	2	2	3	4	43
	９月	講師		12									12
		リーダー		6									6
	10月	講師	19	17	18	31	9	18		11	15	19	157
		リーダー	10	10	8	10	10	10		6	10	10	84
	11月	講師	16	14	17	25	9	14	9	8	13	14	139
		リーダー	8	8	8	8	8	8	7	6	8	7	76
	12月	講師	16	15	20	23	9	16	11	8	15	12	145
		リーダー	8	8	8	8	8	7	8	7	8	6	76
	１月	講師	17	16	19	23	11	11	9	5	12	18	141
		リーダー	8	8	7	8	7	8	7	6	8	7	74
	２月	講師	17	16	20	26	12	14	10	4	12	20	151
		リーダー	8	8	7	8	8	7	6	6	8	7	73
	３月	講師	19	14	18	24	11	16	10	5	12	22	151
		リーダー	8	8	7	7	8	6	7	7	8	8	74
	講師合計		118	124	128	174	69	105	57	48	96	127	1,046
	リーダー合計		58	66	55	59	58	56	42	43	59	55	551
	合計		176	190	183	233	127	161	99	91	155	182	1,597

年度	月		中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2020	6月	講師	9	7	8	10	6	5	3	3	5	12	68
		リーダー	4	3	4	4	4	3	3	4	4	2	35
	7月	講師	20	14	18	18	12	8	9	5	12	18	134
		リーダー	8	6	7	8	8	8	7	7	7	8	74
	8月	講師	23	14	23	20	15	17	10	8	14	23	167
		リーダー	10	6	5	9	9	4	10	9	9	8	79
	9月	講師	15	15	19	22	12	15	8	6	11	20	143
		リーダー	8	8	7	4	8	7	8	7	7	7	71
	10月	講師	20	17	23	22	12	17	11	7	13	23	165
		リーダー	10	10	9	8	8	8	9	9	9	9	89
	11月	講師	16	12	20	27	14	12	9	0	11	14	135
		リーダー	8	8	7	9	10	6	7	4	8	8	75
	12月	講師	13	12	13	17	11	12	8	2	10	17	115
		リーダー	7	5	7	7	8	7	5	5	5	7	63
	1月	講師	17	16	19	23	11	11	9	5	12	18	141
		リーダー	8	8	7	8	7	8	7	6	8	7	74
	2月	講師	17	16	20	26	12	14	10	4	12	20	151
		リーダー	8	8	7	8	8	7	6	6	8	7	73
	3月	講師	19	14	18	24	11	16	10	5	12	22	151
		リーダー	8	8	7	24	8	6	7	7	8	8	91
	講師合計		169	137	181	209	116	127	87	45	112	187	1,370
	リーダー合計		79	70	67	89	78	64	69	64	73	71	724
	合計		248	207	248	298	194	191	156	109	185	258	1,991
総計	講師総計		415	357	475	628	289	369	226	222	349	456	3,786
	リーダー総計		227	221	213	240	229	212	199	195	221	204	2,161
	総計		642	578	688	868	518	581	425	417	570	660	5,947

（出典：札母連資料より筆者作成）

表6　2018年度～19年度のボランティア（講師，リーダー合計）の参加状況（のべ人数）

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2019	4月	24	26	27	20	20	20	20	19	22	0	198
	5月	17	21	19	19	21	14	12	13	15	18	169
	6月	32	32	27	30	27	25	15	19	21	28	256
	7月	24	27	28	26	16	20	10	19	18	23	211
	8月	32	26	27	22	19	19	14	18	15	18	210
	9月	31	25	26	29	23	16	13	17	19	23	222
	10月	27	28	27	24	18	16	14	10	19	24	207
	11月	37	35	34	25	18	25	19	18	23	25	259
	12月	27	28	22	24	20	15	14	18	17	20	205
	1月	22	20	30	18	16	15	10	14	16	21	182
	2月	29	26	27	22	16	20	15	15	18	15	203
	合計	302	294	294	259	214	205	156	180	203	215	2,322

年度	月	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2018	4月	23	24	28	31	26	26	16	18	32	24	248
	5月	16	18	20	22	21	13	12	13	23	19	177
	6月	31	27	40	24	23	28	20	17	35	27	272
	7月	26	22	30	34	27	18	14	16	28	24	239
	8月	21	18	21	23	24	16	9	14	25	14	185
	9月	24	24	33	28	24	21	13	17	27	26	237
	10月	23	24	31	26	24	20	15	9	13	28	213
	11月	22	23	29	28	25	21	16	13	23	21	221
	12月	23	24	30	35	21	22	18	16	26	21	236
	1月	16	22	28	21	21	16	11	16	16	27	194
	2月	20	24	30	30	22	21	14	20	22	26	229
	3月	28	30	25	35	26	27	18	19	29	31	268
	合計	273	280	345	337	284	249	176	188	299	288	2,719

（出典：札母連資料より筆者作成）

り，そこでの活動があるからである。

まなトピアの運営費は，先に述べたように札幌市からの受託事業であるので，そこから賄われる。直近5年間の経費は表7の通りである。後で述べるようにコロナ禍で休止が多かったため2020年，21年度は運営費も少ない。

運営費として，主に会場費（札幌市社会総合福祉センター以外の区民センターや地区会館等の使用料），ボランティア講師の交通費，ボランティアリーダーの交通費がかかる。2022年度（5月～翌3月）でみると，会場費911,770円，ボランティア講師の交通費2,906,000円，ボランティアリーダーの交通費1,988,320円，総計6,551,847円が支出されている。

この運営費はかなり「安上がり」である。ボランティア講師には定額の「交通費」だけを支給しており，札幌市の塾講師の時給で多いと言われる1,200～1,300円に当たる部分の支出はないからである。また，岩見沢市の要保護児童および準要保護児童を対象とした生活困窮家庭の学習支援事業と比較すると，岩見沢では2021年度の年間予算額は2,235千円，受託業者は岩見沢市シルバー人材センター，利用者数は小学生2人，中学生1人，計3人，本人の希望に応じて一人あたり週1回または週2回利用できる。2022年度は小学生6人，中学生11人，計17人が利用した（予算額や受託業者は同じ）。対象者が異なるので単純に比較はできないが，札母連が各区でボランティア講師，ボランティアリーダーによって運営するまなトピアは，運

表7　まなトピアの経費

年度	2018	2019	2020	2021	2022
ボランティア講師交通費	3,592,000	3,026,000	2,582,000	169,000	2,906,000
ボランティアリーダー交通費	921,000	835,000	764,000	746,380	1,988,320
会場費	634,816	555,341	727,250	446,699	911,770
支出総計	5,635,714	4,921,619	4,841,197	3,689,945	6,551,847

（出典：札母連資料より筆者作成）

営費を負担する札幌市にとってコスパの良い事業であると言えよう。

この他にも年１回，ボランティアを対象にした学習会も行う。札幌市との委託契約の中で年１回ボランティア講師の研修会が位置付けられているからである。

2018 年～22 年度までの研修のテーマは表８のとおりである。2018～21 年度は全市で１回，札幌市社会総合福祉センターでの開催であったが，2022 年度からは区ごとに開催（各区テーマは同じ）するようになった。

ボランティア研修の参加者数は表９のとおりである。2022 年度は各区開催となって参加者が増えたように見える。開催日時も柔軟に対応でき，ボランティアが研修のために札幌市総合福祉センターに集まる必要もなくなった。また，表８の研修の他に各区で独自に行う研修もある。2019 年度には中央区で「ボランティアリーダーとしての心構え」（８人参加）の研修が行われ，2020 年度には手稲区で「大切な自分の体と心の守り方（性教育）」（12 人参加）が行われた。各区で必要に応じて自主的に研修が行われている。

（４）まなトピアのコロナ禍における対応

2014 年度以降，前に述べた年末年始，GW やお盆期間以外でまなトピアが全区で休止したのは，2018 年９月第２週の胆振東部地震の時だけである。

しかし，コロナ禍では北海道に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が頻繁に発出されたため，まなトピアも休止せざるを得なかった。新型コロナウィルス感染症の感染拡大を受け，

表８　ボランティア研修のテーマ

年度	テーマ
2022	さっぽろ・まなトピアの目標・目的　タブレット使用に関して
2021	学習コーディネーター養成講座・子どもの貧困・学習支援ボランティアの役割・低所得家庭の子どもとの接し方・結果を出す学習支援の方法
2020	書面による研修（アンケートを踏まえて）・現状の問題と改善策・今後の取り組み目標・指導方法の再確認・相談の対策
2019	子どもの居場所づくりを考える
2018	事業概要・方針・意見交換

（出典：札母連資料より筆者作成）

表９　ボランティア研修の各区の参加者数

年度	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	合計
2022	8	7	12	10	6	4	6	4	6	8	71
2021	2	1	1	2	1		2		1		10
2020	8	5	6	8	5	9	6	6	5	6	64
2019	2	1	2	1	2	1	1		2	2	14
2018	2	2		2	2	2	2		2	2	16

（出典：札母連資料より筆者作成）

2019 年度（2020 年）2 月の最終週は，2 月 28 日～ 3 月 18 日に北海道独自の緊急事態宣言が発出されたためまなトピアは中止となった。続いて 2020 年度の 4 月 17 日～ 5 月 25 日に北海道に緊急事態宣言が発出されたため，まなトピアは 2 月から引き続き 6 月第 2 週まで，2019 年度末～20 年度にかけ連続 15 週間休止となった。

2021 年度 4 月～ 7 月第 2 週までの期間，5 月 9 日～15 日にまん延防止等重点措置，5 月 16 日～ 6 月 20 日に緊急事態宣言，6 月 21～ 7 月 11 日にまん延防止等重点措置が次々と北海道に発出されたため，まなトピアは休止となった。8 月 2 日～26 日にまん延防止等重点措置が発出されたが，感染対策を行いながら 7 月第 3 週～ 8 月第 3 週までは開催した。しかし，8 月 27 日～ 9 月 30 日に緊急事態宣言が再度北海道に発出され，8 月第 4 週と 9 月は中止となった。2021 年度（2022 年）1 月 27 日～ 3 月 21 日にまん延防止等重点措置が発出され，2021 年度（2020 年）1 月最終週～ 3 月まで，まなトピアは中止となった。

このように新型コロナウイルスの感染防止のため，学校だけでなくまなトピアも長期にわたって，なおかつ頻繁に休止せざるを得なかったのである。

その一方で，まなトピアもオンライン開催を追求した。2020 年度 8 月～12 月は対面での開催も行ったが，それと並行して月に 1 回計 5 回（参加者はのべ 6 人）Zoom を使って開催した。2021 年度 9 月も緊急事態宣言が発出され，北区以外で対面でのまなトピアは開催できなかったのでオンラインで 2 回（参加者はのべ 8 人）開催した。2021 年度（2022 年）1 月最終週～ 3 月はまん延防止等重点措置が発出されたため，対面での開催と並行して，この間計 8 回（参加児童はのべ 40 人）Zoom を利用して開催した。

オンラインでの開催は，子どもと講師がオンラインで Zoom に参加し，子どもは自宅において自分で選んだ宿題や教材で学習し質問があれば講師に声をかける，という方法で行われた。しかしながら，子どもから気軽に質問をするという雰囲気にはならなかったようである。また，参加人数も多くはなかった。

2021 年度 9 月は北区のみの開催となった。これは，まなトピアが開催されていた区民センターが新型コロナワクチンの接種会場となり，会議室が使用できなくなったためでもあった。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されると区民センター等の会議室の利用の申込みも中止されているため，開催場所を確保することも難しかったのである。

しかしながら，北海道に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出された中でも，まなトピアではなんとか学習支援を止めないよう試行錯誤が続いた。

3．母親から見たまなトピアの役割

（1）調査の概要

2021 年 11 月にまなトピアに子どもを通わせているシングルマザーを対象にアンケートを行い，45 名から回答を得た。まなトピアの参加要件はひとり親家庭の児童であるので，数は少

表 10　2021 年 9 月の手取りの賃金（諸手当，残業代込み）

		1 円～ 4 万 9,999 円	5 万～ 6 万 9,999 円	7 万～ 8 万 9,999 円	9 万～10 万 9,999 円	11 万～12 万 9,999 円	13 万～14 万 9,999 円	15 万～16 万 9,999 円	17 万～18 万 9,999 円	19 万～20 万 9,999 円	21 万円以上	回答者
正社員	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	26.3%	31.6%	5.3%	26.3%	100.0%
	人数	0	0	0	0	0	2	5	6	1	5	19
非正規	割合	5.0%	5.0%	10.0%	5.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	5.0%	10.0%	100.0%
	人数	1	1	2	1	4	4	2	2	1	2	20

（出典：アンケートより筆者作成）

ないが父子世帯の子どももいるが，父子世帯は経済状況が母子世帯と大きく異なるため，今回は除外している。

回答者は札母連の会員が 40 名，非会員が 5 名である。母親の就業状況は正社員が 20 名，非正規 20 名（パート・アルバイト 11 名，派遣 5 名，嘱託・準社員等 4 名），自営・家族従業者 1 名，未就業 4 名である。収入の状況は表 10 の通りである。月あたりの手取り賃金をみると，正社員では 17 万～19 万円未満が 31.6%，次いで 15 万～17 万円未満，21 万円以上がそれぞれ 26.3%である。非正規では，11 万～13 万円未満，13 万～15 万円未満が 20%ずつである。正社員，非正規の格差は大きい。

まなトピアに通っている全員の子どもの学年，性別は表 11 の通りである。中学生が多く，中でも中 3 女子が多い。シングルマザーは教育投資を男子に中心に行う傾向があるため[8]，中 3 男子は塾などを利用している可能性もある。

アンケートではすべての子どもの状況について回答してもらうのは難しいため，長子の状況について答えてもらった（表 12）。1 家庭に中 3 の女子と男子の双子がいるため，子どもの人

表 11　まなトピアに通っている全員の子どもの学年と性別（複数回答）

	小学校 3 年	小学校 4 年	小学校 5 年	小学校 6 年	中学校 1 年	中学校 2 年	中学校 3 年	合計
女子	0	4	3	3	5	6	10	31
男子	3	2	2	3	5	7	4	26
合計	3	6	5	6	10	13	14	57

（出典：アンケートより著者作成）

表 12　まなトピアに通っている長子の学年と性別

	小学校 3 年	小学校 4 年	小学校 5 年	小学校 6 年	中学校 1 年	中学校 2 年	中学校 3 年	合計
女子	0	1	3	2	4	6	10	26
男子	1	1	1	2	4	7	4	20
合計	1	2	4	4	8	13	14	46

（出典：アンケートより著者作成）

[8] 拙著「第 4 章　寡婦の労働と生活の課題」を参照のこと。

数は46名となっている。

母親が長子に対してどの学校まで進学してほしいか回答してもらったのが表13である。母子世帯でも多くが4年制大学を希望している。しかしながら，母親の雇用形態による差異は大きく，正社員以外では4年制大学を希望する者が少ない。

（2）母親がまなトピアに求めるものと評価

母親がまなトピアに子どもを通わせた理由は表14の通りである。どの学年でも約3/4の親

表13　子どもをどの学校まで進学させたいか

		高校	高等専門学校	専門学校	短大	4年制大学	大学院	その他	回答者
中学生	割合	2.9%	2.9%	14.7%	0.0%	70.6%	2.9%	5.9%	100.0%
	人数	1	1	4	0	24	1	3	34
中学3年	割合	0.0%	7.7%	15.4%	0.0%	76.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	人数	0	1	1	0	10	0	1	13
小学生	割合	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	81.8%	0.0%	9.1%	100.0%
	人数	0	0	1	0	9	0	1	11
全体	割合	2.2%	2.2%	11.1%	0.0%	73.3%	2.2%	8.9%	100.0%
	人数	1	1	5	0	33	1	4	45
正社員	割合	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	人数	0	0	2	0	18	0	0	20
非正規	割合	0.0%	5.0%	15.0%	0.0%	60.0%	5.0%	15.0%	100.0%
	人数	0	1	3	0	12	1	3	20
未就業	割合	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	100.0%
	人数	1	0	0	0	2	0	1	4

（出典：アンケートより筆者作成）

表14　母親が子どもをまなトピアに通わせた理由（複数回答）

		学習習慣を身につける	成績（テストなど）のアップ	授業の分からない点をなくす	学校以外の子どもと交流も持つ	ボランティア講師と交流を持つ	その他	合計
中学生	割合	64.7%	41.2%	73.5%	8.8%	14.7%	11.8%	
	人数	22	14	25	3	5	4	34
中学3年	割合	61.5%	46.2%	76.9%	15.4%	15.4%	15.4%	
	人数	8	6	10	2	2	2	13
小学生	割合	81.8%	27.3%	72.7%	9.1%	27.3%	9.1%	
	人数	9	3	8	1	3	1	11
全体	割合	68.9%	37.8%	73.3%	8.9%	17.8%	11.1%	
	人数	31	17	33	4	8	5	45

（出典：アンケートより著者作成）

が「授業のわからない点をなくす」をあげている。高校受験を控えた中学３年生でも同様で，試験対策や受験対策ではなく日常的な授業の理解度を上げることが目的とされている。「成績（テストなど）のアップ」は思いの外少なく，中学生で 41.2%，中学３年生でも 46.2%である。また「学習習慣を身につける」と回答した親も多く，特に小学生では８割以上を占める。

その他では，「本人の希望で集中して勉強できる環境を作るため」（中２女子），「自室が無いため，兄弟が動画やゲームをしている中での学習だと集中できないため，少しでも学習しやすい環境にと思ったため」（中３女子・男子），「学習環境の気分転換」（小５女子）というように学習環境をあげる親もいた。「ひとり親家庭だけど，孤立してるわけじゃなく支援を考えてる方々がいる環境を見せたかった」（中３女子）と回答した親もいる。

母親が感じている目的の達成度は表 15 の通りである。全体では「達成された」と「まあまあ達成された」を合わせると６割を超えるが，４割は不満を感じている。

今後，まなトピアで行ってほしい支援は表 16 のとおりである。「積極的にテスト対策を行

表 15　母親の感じる目的の達成度

		達成された	まあまあ達成された	やや達成されていない	達成されていない	合計
中学生	割合	8.8%	55.9%	23.5%	11.8%	100.0%
	人数	3	19	8	4	34
中学３年	割合	7.7%	53.8%	38.5%	0.0%	100.0%
	人数	1	7	5	0	13
小学生	割合	36.4%	18.2%	36.4%	9.1%	100.0%
	人数	4	2	4	1	11
全体	割合	15.6%	46.7%	26.7%	11.1%	100.0%
	人数	7	21	12	5	45

（出典：アンケートより著者作成）

表 16　まなトピアでこれから行ってほしい支援（複数回答）

		子ども同士の交流	ボランティア講師との交流	分からない点を懇切丁寧に	積極的にテスト対策	奨学金・学資ローンの説明会	大学等進学学生体験談（子）	大学等へ行かせた母親体験談（親）	その他	合計
中学生	割合	26.5%	26.5%	38.2%	44.1%	32.4%	32.4%	23.5%	8.8%	
	人数	9	9	13	15	11	11	8	3	34
中学３年	割合	15.4%	15.4%	38.5%	38.5%	30.8%	38.5%	38.5%	7.7%	
	人数	2	2	5	5	4	5	5	1	13
小学生	割合	18.2%	27.3%	45.5%	54.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	
	人数	2	3	5	6	2	1	2	1	11
全体	割合	24.4%	26.7%	40.0%	46.7%	28.9%	26.7%	22.2%	8.9%	
	人数	11	12	18	21	13	12	10	4	45

（出典：アンケートより著者作成）

う」が最も多く全体の46.7%である。次いで多いのは，「わからない点を丁寧に指導してほしい」というもので全体の40%を占める。しかし，どちらも〈分からないことを子どもから質問する〉という方法では限界があるだろう。

その他にも中学3年生の親では，「奨学金・学資ローンの説明会を開いてほしい」や「母子家庭で大学に進学した子どもの体験談を聞く」や「進学させた親の体験談を聞く」も少なくはない。子どもの学習支援だけではなく，親もまなトピアで様々な進学に関する情報を求めている。

（3）自由記述に見る母親のまなトピアへの評価

ここでは，アンケートの自由記述から母親のまなトピアへの評価を検討する。

以下がまなトピアへの肯定的な意見の代表的なものである。

- 現在中学2年の女子です。今年から通うようになりました。昨年までは家で勉強していたので，わからないことがあっても人に聞くことが出来ず（わからないことは恥ずかしい。人に聞いたらバカにされると…）その都度イライラして不機嫌になっていました。
  ですが，まなトピアでは，色々な学年の子どもたちが各自色々な勉強をしているので，例えわからなくてもそこまで恥ずかしいという思いを感じずに勉強できるようです。また決めごとがあまりなく割と自由な中で，先生や他の子どもと話をしたりして，楽しい雰囲気の中で勉強できるのが気に入っているようです。要望というより，このような場があることに大変感謝しています。とてもありがたく思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。（中2　女子）

学校とは違い一斉授業ではなく，分からないことを個別にボランティア講師から教えてもらうというスタイルが子どもにとって良いものとなっている。

その一方で，まなトピアに関して不満を感じている母親もいる。1点目は週1回開催である点や時間帯が合わないというものである。

- 現在の日曜18：00～20：00は翌日の学校に差し支えているので，時間を1時間でも早くして頂くか土曜日にして欲しい。（中2　女子）

- 平日や土日の午前中なども行って欲しいです。（小5　男子）

- もう少し回数が増えたらありがたいです（中3　男子）

2点目は分からない点を子どもが質問するというスタイルが合わないと感じている母親もい

ることである。

- わからない所があってもシーンとしていて聞きづらいとのことですので，声掛けの頻度を多くしていただけると助かります。（小４　男子）

- わからないところを教えて欲しい。（中２　男子）

- 丸付けをしてほしい。間違ったまま持ち帰って来るので，理解していないと思う。これだとあんまり意味がないように思います。（小３　男子）

３点目として，現状のまなトピアの指導内容以上の要求を持っている母親もいる。

- その時間だけでなく家庭学習自学学習に結びつくよう持っていった課題のここまで次までに終わらせようなどと宿題などを課して欲しい。（中３　女子）

- 社会，理科も指導して頂ける先生がいれば嬉しい。（中３　女子）

- 宿題を出してもらえたり，英会話の機会があるとありがたいです。（中２　男子）

母親たちは，現状で行われている持参した課題の〈分からないところを講師に質問する〉というスタイル以上に「宿題を出して欲しい」と要求したり，より広い範囲への対応（理科，社会，英会話）を求めたりしている。しかしながら，週１回で学習塾とは異なり統一のカリキュラムを持たないまなトピアの運営方法や，現状でもボランティア講師が不足気味の状況からこのような母親の要求に応えるのは難しいと思われる。

もう一つの母親からの要望として多いのは学習環境についてである。

- 学習中，騒いでいる生徒に注意してほしい。（中３　女子）

- 勉強の習慣がつけば良いなと思い通わせておりましたが，あまり環境が良くないようで（雑談が多い，うるさい等）コロナをきっかけに行かなくなりました。（中２　女子）

- もう少し勉強に集中できる環境を作って欲しいです。（中１　女子）

まなトピアでは，子どもの〈居場所づくり〉が目的とされており，何度も述べたように一斉

授業は行わないため，子どもの集中力が途切れて雑談などが出る時間がどうしても発生する。そのためこのような母親の不満が発生してしまうと考えられる。

（4）コロナ禍でのまなトピア：オンライン開催

先に述べたように2020年以降の主に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されて時期に，まなトピアはZoomを使って開催された。札幌市社会総合福祉センターでボランティアリーダーの札母連の役員がホストになり，ボランティア講師2人が参加し，子どもからの質問がある場合に回答するという方法で行った。

表17のようにアンケートでは，子どもを参加させた経験のある親は2名（全体の4.4%）しかいないが，参加を希望する親は多い（全体の73.3%）。

しかし，希望しない親も全体の2割以上を占める。では，何が親にとってオンライン開催への参加を躊躇わせているのだろうか。表18のように「特に不安はない」が最も多い（中学生38.2%，小学生63.6%，全体44.4%）が，その一方で「まなトピアの時間に自分が家にいないので，子どもの様子がわからない」（中学生26.5%，小学生0％，全体20.0%）という母親の心理的な不安だけでなく，「きょうだいがいるので，１人１台端末を用意できない」（中学生14.7%，小学生18.2%，全体15.6%），「子どもが落ち着いて勉強する部屋が家庭にない」（中学生11.8%，小学生9.1%，全体11.1%）といった家庭での学習環境が整っていないためオンライン開催に不安を感じている母親もいるのである。

コロナ禍によって各学校のオンライン授業へ対応が進んだと考えがちであるが，GIGAスクール構想[9]によって児童生徒１人１台端末を配布しても，Wi-Fiの設置や勉強するスペース

表17　休校期間にオンラインでのまなトピアに子どもを参加させたいか

		はい	いいえ	すでに参加した	合計
中学生	割合	70.6%	23.5%	5.9%	100.0%
	人数	24	8	2	34
中学３年	割合	46.2%	38.5%	15.4%	100.0%
	人数	6	5	2	13
小学生	割合	81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
	人数	9	2	0	11
全体	割合	73.3%	22.2%	4.4%	100.0%
	人数	33	10	2	45

（出典：アンケートより筆者作成）

[9] 文科省リーフレット「GIGAスクール構想の実現へ」では，「１人１台端末と，高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで，特別な支援を必要とする子供を含め，多様な子供たちを誰一人取り残すことなく，公正に個別最適化され，資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。これまでの我が国の教育実践と最先端ののベストミックスを図ることにより，教師・児童生徒の力を最大限に引き出す」と記述されている。（文科省HP　https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_0001111.htm　2023年6月16日閲覧）

表 18　まなトピアをオンライン開催した場合，不安に感じる点（複数回答）

		特に不安はない	自分自身ズーム等の操作が分からない，不安	無制限プランなし，通信の料金が心配である	親が知らない所で，子どもが知らない人と連絡先を交換するかもしれない	きょうだいがいるので，1人1台端末を用意できない	子どもが落ち着いて勉強する部屋が家庭にない	まなトピアの時間に自分が家にいないので，子どもの様子がわからない	その他	合計
中学生	割合	38.2%	8.8%	5.9%	8.8%	14.7%	11.8%	26.5%	17.6%	
	人数	13	3	2	3	5	4	9	6	34
中学３年	割合	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%	23.1%	23.1%	30.8%	38.5%	
	人数	2	3	0	0	3	3	4	5	13
小学生	割合	63.6%	18.2%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	
	人数	7	2	0	0	2	1	0	1	11
全体	割合	44.4%	11.1%	4.4%	6.7%	15.6%	11.1%	20.0%	15.6%	
	人数	20	5	2	3	7	5	9	7	45

（出典：アンケートより筆者作成）

の問題でオンライン授業への対応ができない家庭もあるのである。母親の自助努力に期待するのではなく，学校や行政がこのような家庭に対して積極的に支援を行うことも必要である。

４．子どもの自宅での学習の状況

「札幌市子ども貧困対策計画」は，「実態調査からは，困難を抱える世帯において，学習習慣や学習の理解度などが相対的に低い傾向にあることが確認されてい」ると指摘する[10]。札幌市の調査は，小５，中２，高２の子どもが回答しており，全体と，うち非課税世帯，うちひとり親家庭を比較しているだけである。そのため，もう少し詳細にシングルマザーが子どもの自宅での学習についてどのように認識しており，課題を感じているのかを明らかにする。今回のアンケートは母親が回答しているので，子どもが回答したものと単純に比較することはできないが，母子世帯の子どもの学習状況を知ることはできる。

（１）自宅でのオンライン学習環境と GIGA スクール構想

文部科学省初等中等教育局「令和２年度補正予算案への対応について」[11] によれば，「家庭学習のための通信機器整備支援 147 億円」が，「Wi-Fi 環境が整っていない家庭に対する貸与等

[10] 前掲「札幌市子ども貧困対策計画」47 ページ

[11] https://www.mext.go.jp/content/20200408-mxt_jogai02-000003278_412.pdf　2023 年 6 月 19 日閲覧

を目的として自治体が行う，LTE 通信環境（モバイルルータ）の整備を支援」するため措置された。これによって，国・公・私立の小・中・特支等の年収 400 万円未満の家庭に対して上限 1 万円の支援を約 147 万台行うとしている。

しかし，札母連調査では，子どもたちが自宅においてオンラインで学習する環境は整っていない家庭があることが明らかになった。表 19 のように概ね自宅用 Wi-Fi が設備されているが（中学生 94.1%，小学生 100.0%，全体 95.6%），スマホからデザリングする，Wi-Fi がないと回答した者もそれぞれ 1 名いる。

また，表 20 のように GIGA スクール構想により子どもに 1 人一台配布されたタブレットも「毎日持ち帰っている」は全くおらず，「持ち帰っていない」が最も多く（中学生 70.6%，小学生 54.5%，全体 66.7%），「時々持ち帰って，時々利用している」も全体の 3 割にとどまる（中学生 26.5%，小学生 45.5%，全体 31.1%）。

しかし，母親の約 7 割はタブレットを持ち帰って使用させたいとしている（表 21）。これは

表 19　自宅に Wi-Fi 環境があるか

		自宅用 Wi-Fi がある	スマホからデザリングができる	Wi-Fi 環境はない	合計
中学生	割合	94.1%	2.9%	2.9%	100.0%
	人数	32	1	1	34
中学 3 年	割合	92.3%	0.0%	7.7%	100.0%
	人数	12	0	1	13
小学生	割合	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	人数	11	0	0	11
全体	割合	95.6%	2.2%	2.2%	100.0%
	人数	43	1	1	45

（出典：アンケートより筆者作成）

表 20　学校で配布されたタブレットを自宅に持ち帰って利用しているか

		毎日持ち帰って，毎日利用している	毎日持ち帰って，時々利用している	時々持ち帰って，時々利用している	持ち帰っていない	わからない	合計
中学生	割合	0.0%	0.0%	26.5%	70.6%	2.9%	100.0%
	人数	0	0	9	24	1	34
中学 3 年	割合	0.0%	0.0%	30.8%	61.5%	7.7%	100.0%
	人数	0	0	4	8	1	13
小学生	割合	0.0%	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
	人数	0	0	5	6	0	11
全体	割合	0.0%	0.0%	31.1%	66.7%	2.2%	100.0%
	人数	0	0	14	30	1	45

（出典：アンケートより筆者作成）

表 21　学校で配布されたタブレットの自宅への持ち帰りを希望するか

		はい	いいえ	合計
中学生	割合	70.6%	29.4%	100.0%
	人数	24	10	34
中学３年	割合	69.2%	30.8%	100.0%
	人数	9	4	13
小学生	割合	72.7%	27.3%	100.0%
	人数	8	3	11
全体	割合	71.1%	28.9%	100.0%
	人数	32	13	45

（出典：アンケートより筆者作成）

子どもが自由に利用できるデバイスを見ても（表 22），パソコンやタブレットは家族と共用されている家庭が多く，親が在宅勤務をしている，あるいはきょうだいがいる場合は子どもがデバイスを利用できる時間が限られるためと思われる。一方，スマートフォンは中学生に子ども専用のものが与えられている。

文科省の掛け声には程遠く，Wi-Fi 環境とデバイスの両面から見て，すべての子どもが自宅でのオンラインの学習に取り組める環境にはない。

（２）自宅での学習時間と ICT 機器の利用状況

ここでは，シングルマザーの子どもたちの自宅での学習状況を見ていく。可能な限り文科省「令和３年度全国学力・学習状況調査」（以下，文科省調査と表記）と比較する。もちろん，文科省調査は子どもが回答したものであるので，単純に比較することはできない。

学校の授業時間以外に，平日（月曜日から金曜日）平均して１日当たりどのくらいの時間勉

表 22　子どもが自由に利用できるデバイス（複数回答）

		パソコン（家族と共用）	パソコン（子ども専用）	タブレット（学校から配布）	タブレット（家族と共用）	タブレット（子ども専用）	スマートフォン（家族と共用）	スマートフォン（子ども専用）	その他	合計
中学生	割合	32.4%	14.7%	8.8%	41.2%	8.8%	11.8%	67.6%	2.9%	
	人数	11	5	3	14	3	4	23	1	34
中学３年	割合	30.8%	0.0%	15.4%	23.1%	7.7%	7.7%	69.2%	7.7%	
	人数	4	0	2	3	1	1	9	1	13
小学生	割合	81.8%	0.0%	27.3%	18.2%	27.3%	36.4%	18.2%	0.0%	
	人数	9	0	3	2	3	4	2	0	11
全体	割合	44.4%	11.1%	13.3%	35.6%	13.3%	17.8%	55.6%	2.2%	
	人数	20	5	6	16	6	8	25	1	45

（出典：アンケートより筆者作成）

強をしているか（学習塾で勉強している時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）を見たのが表 23 である。札母連調査の方が子どもの学習時間は短く，「３時間以上」と「２時間以上３時間未満」が小中学生とも圧倒的に少ない。中学３年生の受験生であっても同様である。

単純にシングルマザーは仕事に忙しく子どもの教育的なケアができないとは言い切れないが，少なくともまなトピアの目標である学習習慣を身につけるという所まではできていないといえよう。しかしながら，これはまなトピアの課題であると同時に学校教育の課題でもある。後で見るように，塾などの学校外の教育機会を利用できない子どもたちにどのような学習支援を行うべきなのか，まなトピアのような民間の支援と学校教育が連携して対応する必要がある。

次に平日（月曜日～金曜日）平均して１日どれくらいの時間スマートフォンやコンピュータ機器をネットに繋いで勉強のために使っているのかを見たのが表 24 である。文科省調査と比べると札母連調査では中学生，小学生とも「全くしない」が多く，１時間以上の利用は少ない。

これも単純に母親の教育的なケアが少ないだけが理由とはいえない。先に見たように札幌市では GIGA スクール構想で配布されたタブレットの家庭への持ち帰りは少なく，また，母子世帯の塾などの利用が少ない事など複合的な要因があると思われる。

では，平日どのくらいの時間をスマホやパソコン等をネットに繋いでゲームをするのに使っているのかを見たのが表 25 である。文科省調査と比べて，札母連調査の小学生中学生とも特段使用時間が長いとは言えない。全体として３時間以上の子どもが多いのである。ゲーム利用時間のコントロールが学習時間の確保のために重要という指摘もなされているが，今回の結果では母子世帯だけそれができていないということはない。

表 23　平日１日あたりの学校の授業時間以外の学習時間

		３時間以上	２時間以上３時間より少ない	１時間以上２時間より少ない	30 分以上１時間より少ない	30 分より少ない	全くしない	合計
小学生（文科調査）		11.9%	15.4%	35.5%	24.3%	9.0%	3.5%	99.6%
中学生（文科調査）		12.4%	29.4%	34.0%	14.1%	6.4%	3.5%	99.8%
中学生	割合	2.9%	14.7%	29.4%	32.4%	20.6%	0.0%	100.0%
	人数	1	5	10	11	7	0	34
中学３年	割合	0.0%	7.7%	38.5%	30.8%	23.1%	0.0%	100.0%
	人数	0	1	5	4	3	0	13
小学生	割合	0.0%	0.0%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%	100.0%
	人数	0	0	3	5	2	1	11
全体	割合	2.2%	11.1%	28.9%	35.6%	20.0%	2.2%	
	人数	1	5	13	16	9	1	45

（出典：アンケートより筆者作成）

表 24　平日 1 日あたりのネットを利用した学習時間

		3 時間以上	2 時間以上 3 時間より少ない	1 時間以上 2 時間より少ない	30 分以上 1 時間より少ない	30 分より少ない	全くしない	スマホ・コンピュータなどの ICT 機器を持っていない	分からない	合計
小学生（文科調査）		3.9%	4.5%	11.6%	21.6%	29.5%	19.9%	8.9%	−	99.9%
中学生（文科調査）		2.8%	4.4%	12.7%	22.8%	34.4%	19.1%	3.5%	−	99.7%
中学生	割合	2.9%	2.9%	5.9%	29.4%	20.6%	35.3%	−	2.9%	100.0%
	人数	1	1	2	10	7	12	−	1	34
中学 3 年	割合	0.0%	7.7%	7.7%	15.4%	7.7%	53.8%	−	7.7%	100.0%
	人数	0	1	1	2	1	7	−	1	13
小学生	割合	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	27.3%	54.5%	−	9.1%	100.0%
	人数	0	0	0	1	3	6	−	1	11
全体	割合	2.2%	2.2%	4.4%	24.4%	22.2%	40.0%	−	4.4%	100.0%
	人数	1	1	2	11	10	18	−	2	45

（出典：アンケートより筆者作成）

表 25　平日 1 日あたりのネットを利用したゲーム時間

		3 時間以上	2 時間以上 3 時間より少ない	1 時間以上 2 時間より少ない	1 時間より少ない	全くしない	分からない	回答者
小学生（文科調査）		28.8%	20.3%	26.8%	16.6%	7.4%	−	99.9%
中学生（文科調査）		32.0%	24.7%	23.1%	12.6%	7.4%	−	99.8%
中学生	割合	29.4%	23.5%	23.5%	14.7%	8.8%	0	100.0%
	人数	10	8	8	5	3	0	34
中学 3 年	割合	30.8%	30.8%	15.4%	15.4%	7.7%	0	100.0%
	人数	4	4	2	2	1	0	13
小学生	割合	30.0%	10.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	100.0%
	人数	3	1	2	2	1	1	10
全体	割合	29.5%	20.5%	22.7%	15.9%	9.1%	2.3%	100.0%
	人数	13	9	10	7	4	1	44

（出典：アンケートより筆者作成）

（3）塾や通信教育の利用状況

まなトピアに子どもを通わせる親の塾や通信教育の利用状況は表 26 のとおりである。文科省「令和 3 年度子どもの学習費調査」の「通信教育・家庭教師費の金額分布」を見ると，公立小学校では全体の 58.1%，公立中学校で 65.4%が「0 円」と回答しており，つまり利用しているのは公立小学校 41.9%，公立中学校 34.6%である。札母連調査では，家庭教師を利用しているものはおらず，通信教育を利用しているのが小学生 54.5%，中学生 32.4%である。札母連調査の方が小学生で通信教育を利用している者が多い。

表 26　学校とまなトピア以外でお子さんが利用している塾や通信教育等（複数回答）

		家庭教師を利用している	通信教育（オンライン講座も含む）を利用している	塾に通っている	利用しているものはない	合計
中学生	割合	0.0%	32.4%	38.2%	38.2%	
	人数	0	11	13	13	34
中学３年	割合	0.0%	23.1%	15.4%	61.5%	
	人数	0	3	2	8	13
小学生	割合	0.0%	54.5%	27.3%	36.4%	
	人数	0	6	3	4	11
全体	割合	0.0%	37.8%	35.6%	37.8%	
	人数	0	17	16	17	45
正社員	割合	0.0%	30.0%	55.0%	35.0%	
	人数	0	6	11	7	20
非正規	割合	0.0%	45.0%	20.0%	40.0%	
	人数	0	9	4	8	20
未就業	割合	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
	人数	0	2	0	2	4

（出典：アンケートより筆者作成）

同じく「学習塾費」は公立小学校で 61.1%，公立中学校で 29.6%が「０円」であるから，38.9%，69.4%が学習塾を利用している。中学３年生で学習塾を利用している者は 84.0%，平均の年間支出は 464 千円である。札母連調査では，塾を利用しているのは小学生 27.3%，中学生 38.2%であり，特に中学生で塾の利用が少ないことがわかる。

学習費調査ではわからないが，札母連調査では「利用しているものはない」が全体の４割弱である。特に中学３年生の６割以上がまなトピアの他に利用しているものがない状態となっている。中学校３年生にとってまなトピアが重要なものであることは間違いがない。あるいは，塾や通信教育を利用できる環境にある子どもたちは，受験期にはまなトピアではなくそれらを利用している可能性もある。

別の側面から見れば，全体の６割強はまなトピアだけでなく学習塾や通信教育を併用している。母子世帯は貧困だから無料の学習支援のみを利用するのではなく，他の塾や通信教育も利用しながらまなトピアを利用している者も少なくない。

一方で塾や通信教育は誰もが利用できるわけではない。母親の雇用形態の影響も大きく，正社員では塾の利用が多いが，非正規では比較的安価な通信教育の利用が多い。

では，母親は塾や通信教育にどのくらいに費用をかけているのだろうか？　表 27 のように札母連調査では，小学生では額にばらつきがあるが，中学生では４割近くが月１万６千円以上，年間約 20 万円以上支出している。また，母親の雇用形態の影響も大きい。正社員の６割以上は月１万６千円以上を支出しているが，一方，非正規や未就業では月１万円程度の支出が

表 27　1ヶ月あたりの塾や通信教育の支出

		塾や通信教育を利用している が，無料	1～2千円未満	2千～4千円未満	4千～6千円未満	6千～8千円未満	8千～1万円未満	1万～1万2千円未満	1万2千～1万4千円未満	1万4千～1万6千円未満	1万6千円以上	利用者	合計
中学生	割合	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	14.3%	4.8%	19.0%	4.8%	0.0%	38.1%	100.0%	
	人数	1	1	1	1	3	1	4	1	0	8	21	34
中学3年	割合	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%	
	人数	1	0	1	0	0	0	2	0	0	1	5	13
小学生	割合	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	100.0%	
	人数	0	0	1	0	1	1	2	0	1	1	7	11
全体	割合	3.6%	3.6%	7.1%	3.6%	14.3%	7.1%	21.4%	3.6%	3.6%	32.1%	100.0%	
	人数	1	1	2	1	4	2	6	1	1	9	28	45
正社員	割合	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%	61.5%	100.0%	
	人数	0	0	1	0	1	0	3	0	0	8	13	20
非正規	割合	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	16.7%	8.3%	25.0%	8.3%	8.3%	8.3%	100.0%	
	人数	0	1	1	1	2	1	3	1	1	1	12	20
未就業	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	人数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	4

（出典：アンケートより筆者作成）

多い。親の経済状況によって塾や通信教育の支出に影響があると考えられる。正社員，非正規どちらの場合も，収入から考えると経済的に余裕がある家庭が少ないと思われるため，塾や通信教育の支出は母子世帯にとって負担の大きなものであると考えられる。

5．コロナ禍における自宅での学習状況

（1）コロナ禍における自宅での学習状況

北海道のコロナ禍における休校は，鈴木直道道知事の突然の発表から始まった。その後，休校と解除を繰り返し，クラスや学年ごとの閉鎖に切り替えられた。これらの子どもが登校できない時期がシングルマザーとその子どもたちに大きな影響を与え，子どもの安全・安心な環境が保持できない中で，親の自己責任に任されたことはすでに明らかにした[12]。

休校期間中に子ども達はどのように学習に取り組んでいたのであろうか？　それを見たのが表 28 である。最も多いのが「学校から配布された課題・宿題」であり，全体の 8 割を占める。次に多いのが「教育委員会 HP 公開の課題」であり，5 割弱の者が取り組んだ。この札幌市教育委員会の取り組みは，「ICT を利用した学習の取り組み」の好事例として取り上げられている[13]。「動画教材・学習教材を活用した家庭学習支援（北海道札幌市教育委員会）」として，

[12] 前掲　拙著「第 3 章　新型コロナウイルス禍がシングルマザーの労働と子育てに与える影響」参照のこと。

表 28　コロナ禍で休校になった時の勉強方法（複数回答）

		学校から配布された課題・宿題	教育委員会 HP 公開の課題	もともと入っていた塾の課題・宿題	新しく入った塾の課題・宿題	もともと持っていた市販の教材	新しく買った市販の教材	もともと加入通信教育の課題・宿題	新加入の通信教育の課題・宿題	どれも利用しなかった（重複なし）	回答者
中学生	割合	82.4%	47.1%	14.7%	2.9%	17.6%	8.8%	14.7%	2.9%	5.9%	
	人数	28	16	5	1	6	3	5	1	2	34
中学３年	割合	69.2%	46.2%	0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%	15.4%	
	人数	9	6	0	0	3	2	1	1	2	13
小学生	割合	72.7%	45.5%	9.1%	0.0%	36.4%	18.2%	18.2%	0.0%	18.2%	
	人数	8	5	1	0	4	2	2	0	2	11
全体	割合	80.0%	46.7%	13.3%	2.2%	22.2%	11.1%	15.6%	2.2%	8.9%	
	人数	36	21	6	1	10	5	7	1	4	45
正社員	割合	80.0%	65.0%	25.0%	5.0%	25.0%	10.0%	15.0%	0.0%	5.0%	
	人数	16	13	5	1	5	2	3	0	1	20
非正規	割合	85.0%	40.0%	5.0%	0.0%	25.0%	10.0%	15.0%	5.0%	5.0%	
	人数	17	8	1	0	5	2	3	1	1	20
未就業	割合	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	
	人数	2	0	0	0	0	0	1	0	2	4

（出典：アンケートより筆者作成）

「学習課題サポートのための授業動画を配信するとともに，週ごとに家庭で活用できる学習教材（PDF ファイル）を市教育委員会ホームページで配信。『保護者によるかかわり方のポイント』を（動画で：筆者の加筆）掲載し，家庭学習を支援」するというものである。しかしながら，これは家庭にネット環境があり，パソコンかタブレット，プリンターが設置されていることを前提に成り立つ学習方法である。アンケートでも経済的に安定していると思われる正社員の利用率が非正規や未就業より高い。加えて親が動画を見て子どもを指導するという前提があり，日中働いていることが多いシングルマザーにとってはハードルが高い。

アンケートを見ると少数ではあるが「どれも利用しなかった」という者がおり，学校や教育委員会の支援が届いていないケースもある。

（2）わからないことがあった時の対応

休校中に子ども達がわからないことがあった場合，どのように対応していたのであろうか？表 29 のように札母連調査では「友達に聞いた」が小学生，中学生とも多くなっている。文科省調査では小学生では「家族に聞いた」78.7%，中学生では 44.1%を占めるが，札母連調査では０%，5.9%と非常に少ない。日中働いている親が大部分を占めるシングルマザー家庭では，親が支援しようとしても無理がある。

[13] 初等中等教育局　情報教育・外国語教育課長　髙谷浩樹「ICT の積極的な活用による『学びの保障』について」（2021 年 6 月 9 日） https://www.mext.go.jp/content/20200609-mxt_syoto01-000007788_4.pdf（2023 年 6 月 23 日閲覧）

表 29　休校中にわからないことがあった時の対応（複数回答）

		学校の先生に聞いた	友達に聞いた	家族に聞いた	先生，家族，友達以外に聞いた	自分で調べた	わからないことをそのままにした	わからないことはなかった	思い出せない	子どもの様子がわからない（重複なし）	回答者
小学生（文科調査）		9.3%	31.9%	78.7%	9.4%	62.4%	10.1%	10.4%	4.8%	−	
中学生（文科調査）		7.4%	43.9%	44.1%	12.3%	61.5%	14.3%	6.3%	6.9%	−	
中学生	割合	0.0%	32.4%	5.9%	2.9%	23.5%	20.6%	2.9%	−	11.8%	
	人数	0	11	2	1	8	7	1	−	4	34
中学３年	割合	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	23.1%	38.5%	0.0%	−	15.4%	
	人数	0	2	1	0	3	5	0	−	2	13
小学生	割合	0.0%	72.7%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	−	18.2%	
	人数	0	8	0	0	1	0	0	−	2	11
全体	割合	0.0%	42.2%	4.4%	2.2%	20.0%	15.6%	2.2%	−	13.3%	
	人数	0	19	2	1	9	7	1	−	6	45

（出典：アンケートより筆者作成）

また，「自分で調べた」も札母連調査では少ない。自宅に参考書等やネット環境がなければ，子ども達が自分で調べることもできないであろう。コロナ禍がより学習環境の整っていなかった家庭に大きな影響を与えたと考えられる。

さらに問題なのは，人数は少ないが中学校３年生の 15.4%，小学生の 18.2%が「どれも利用しなかった」と回答したことである。親の学習支援が難しい母子世帯で子どもの学習が放置されている可能性がある。

（3）コロナ禍でのオンライン学習の利用

コロナ禍での休校という事態に対応するために注目を集めたのがオンライン学習である。文科省，経産省も「学びを止めない！」をスローガンにオンライン学習や ICT 機器を利用する学習の啓発を行なった[14]。では，どのくらい家庭では利用されたのだろうか？　表 30 の札母連調査を見ると「どれも行なっていない」が半数を超えている。学校のオンライン授業も中学生で 17.6%の利用にとどまる。塾や通信教育などの学校外のオンライン学習の利用も決して多くはなく，2021 年になってからも母子世帯では家庭でのオンライン学習が定着していない。

6．ま　と　め

子どもの貧困が社会的な課題として認識されるようになり，札幌市でも「札幌市子ども貧困対策計画」を作成し対応を行なっている。本稿ではその中のひとり親家庭の子どもへの学習支

[14] 文科省「学びを止めない！これからの遠隔・オンライン教育」（https://www.mext.go.jp/content/20210226-mxt_jogai02-000010043_003.pdf　2023 年 6 月 23 日閲覧）
経産省「# 学びを止めない未来の教室」（https://www.learning-innovation.go.jp/covid_19/　2023 年 6 月 23 日閲覧）

表 30　コロナ禍で休校になった時のオンライン学習の利用（複数回答）

		学校のオンライン学習（昨年初）	塾のオンライン学習（昨年初）	YouTube 動画や学習サイト，アプリなどのオンライン学習（昨年初）	YouTube 動画や学習サイト，アプリなどのオンライン学習（過去も経験）	通信教育のオンライン学習（昨年初）	どれも行っていない（重複なし）	回答者
中学生	割合	17.6%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	47.1%	
	人数	6	2	2	2	2	16	34
中学３年	割合	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%	69.2%	
	人数	1	1	1	1	0	9	13
小学生	割合	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	63.6%	
	人数	0	1	1	0	1	7	11
全体	割合	13.3%	6.7%	6.7%	4.4%	6.7%	51.1%	
	人数	6	3	3	2	3	23	45

（出典：アンケートより筆者作成）

援事業であるまなトピアを中心に検討を行った。

まなトピアに通う子ども達の普段の学習状況について，以下の点が明らかになった。

第１に今回の札母連調査でも母子世帯の子どもの家庭での学習時間は短い。その理由の一つは，塾や通信教育の利用が少ないことがあげられる。特に学習塾の利用率は全国に比べても低い。札母連調査では，中学３年生でまなトピア以外何も利用していない者は６割を超えている。

第２に，その一方でネットを使ったゲームの使用は，母子世帯の子どもだけが長いわけではないということも明らかになった。ゲームの利用に大きな差がないなら，学習の習慣が身につかないこととゲーム時間を安易に直結させることはできない。

第３にコロナ禍での自宅での学習にも関係するが，Wi-Fi 環境など日常的な ICT 機器の使用環境が整っていない，あるいは使用するデバイスが家族と共用の子どもも多数いる。母親は学校で配布されたタブレットの家庭でも利用を希望しているが，できていない場合が多い。また，子どもの勉強部屋がないケースもある。このように，母子世帯の子どもの学習環境はハード面に大きな課題を抱えている。

コロナ禍での学習状況について，以下の点が明らかになった。

第１に新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため，学校は長期間の休校を余儀なくされた期間，母子世帯の子どもたちは教師や親からの支援を十分に受けられたとは言えない。母子世帯の子どもたちは，わからない問題があった時に教師や親に頼ることができなかった。これはコロナ禍でも母親は仕事を続けざるを得なかったことも要因の一つであろう。

第２に文科省は ICT 機器を使用する GIGA スクール構想を推進したが，今回の札母連調査で休校期間中に多く利用されていたのは古典的な学校から配布された課題であった。札幌市教育員会がネットで公開した課題の利用は半数にとどまった。

第3に学校においても塾や通信教育においても，札母連調査でコロナ禍でのオンライン学習は利用できた子どもは少なく，単純にコロナ禍でオンライン学習が広まったとは，言えないことも分かった。

このようにコロナ禍での休校期間中，あるいは家庭での学習において母子世帯の子どもは，学習に関する支援，リソースが不足している可能性が高いことが明らかになった。

このような状況に対して札母連の行うまなトピアの意義は以下の通りである。

第1に，まなトピアは札幌市における地域住民による自主的な子どもへの学習支援であることを評価しなければならない。まなトピアは年間のべ多い時には年間5,000人以上人の子どもを受け入れ，そのために年間ボランティア講師とボランティアリーダーを合わせて多い時には年間2,000人以上が運営に関わっている。札幌市の10区全てを網羅し，殆ど週1回開催されるまなトピアは継続的になおかつ自分の住んでいる地区で子どもの居場所を作り，学習を支えている事は高く評価されて良い。

今日の日本において，家庭学習の支援の大部分は学習塾や通信教育といった民間企業の教育サービスに任されているといって良いだろう。この教育サービスを利用できない層に対して，バウチャーを給付し塾などの利用を促すという支援の方法も考えられる。しかし，まなトピアで行われているのは小中学生を育てるシングルマザーの先輩である寡婦や地域の学生，一般市民のボランティアによる支援である。アンケートに書かれていた「ひとり親家庭だけど，孤立してるわけじゃなく支援を考えてる方々がいる環境を見せたかった」という母親の回答に見られるように，まなトピアは教育サービスを購入するのとは違う地域のインクルーシヴな支援の実践であるといえよう。

第2に，母親は「授業のわからない点となくす」,「学習習慣を身につける」といった日常的な学習の支援をまなトピアに対して求めており，子どもがわからないところを講師に聞くという方法での実践は多くの母親が満足している。

第3にまなトピアは，子どもの食糧支援等プラットフォームとして，地域団体との連携の場となっている。

第4にまなトピアは，日常的な母親の生活相談，進路相談の場にもなっている。コロナ禍以降，その利用は増加している。

このようにまなトピアは，日常的な学習環境にハンディがある母子世帯の子どもにとって，週1回ではあるが親子に支援を行う重要な場となっている。

しかし，まなトピアの運営にも課題がある。

第1に，まなトピアはコロナ禍の休校中の子どもたちの学習の受け皿にはなりえなかったということである。これは，もちろん突然の北海道独自の緊急事態宣言の発出によってまなトピアは休止せざるを得なくなり，その後も断続的に緊急事態宣言，まん延防止等重点措置が発出されたことによる影響が大きい。しかしながら，代替措置となるZoomでの開催等への対応は遅かった。これは札母連だけでなく札幌市が緊急事態宣言，まん延防止等重点措置が発出され

た期間にまなトピアをどう開催するのかを迅速に検討し，決断しなかったことに他ならない。拙著や本稿でも明らかになったようにコロナ禍の休校期間中に子どもたちは各家庭で安全・安心な居場所を奪われていた。結果論であるが，まなトピアは子どもたちが居場所と学習機会を喪失していた状況への対応は遅かったと言わざるを得ない。今後は，札幌市と札母連が緊急事態にどう子どもたちの居場所と学びを保障するのかを検討する必要があろう。

第2に，まなトピアではWi-Fi環境やデバイスの整備など家庭での学習環境の整備にまで手が回っていないことである。これはまなトピアではなく，地域自治体や学校の役割であろう。自宅で学習するスペースのない子どももいる。

第3には，まなトピアが全ての母親の要望に答えられないことである。現状では，まなトピアは，宿題を題してほしい，英会話等に対応してほしいという母親の過大な期待に答えることはできない。しかしながら，学校でそれらの教育や家庭学習の支援を受けられていないからこそ，母親はまなトピアに期待するのである。学校は家庭学習に何を求めるのか，学校自体が子どもの学習を支えるために何をすべきか再考する必要がある。

第4に，コロナ禍の札幌市教育委員会の支援が典型であるが，母親の子どものケアを全ての家庭で前提とできるのか，考える必要がある。共働き家庭も増え，ひとり親家庭だけでなくても子どもの学習のケアを行うのは大変な負担である。ネットでも近年「なぜ，夏休みの宿題のまる付けを親にやらせるのか」というような書き込みが散見される。このような家庭の自己責任に任せる家庭学習は，長時間労働を行う母親や塾などの民間の教育サービスを利用できない母親にとっては負担である。ここでも学校と家庭学習の分担に課題が生じている。

第5に，まなトピアの役割が創設時とは変化しており，今後の役割を考える時期に来ているということである。まなトピアの創設時は，母子世帯の厳しい経済状況によって塾に行けない子ども達に学習の場を提供することが目的とされていた。しかし，今回のアンケートでは全体の6割強の子どもは通信教育や塾を利用している。このように多様な学習機会を利用する子どもにとってまなトピアがどのような役割を果たすのかを再考する時期に来ている。その一方で全体の4割弱の子どもはまなトピア以外の塾や通信教育を利用できていない。まなトピアを利用する子ども達の中に格差が生じている可能性がある。

進学希望，塾や通信教育の利用，休校中の学習支援の利用状況も正社員とそうでない者で差がみられ，シングルマザー間で格差が生じている。その意味でも，まなトピアの意味を再考する必要があろう。

【参考文献】

中囿桐代　『シングルマザーの貧困はなぜ解消されないのか　「働いても貧困」の現実と支援の課題』（勁草書房　2021年）